

第 7 回厚生文教常任委員会会議記録

開 閉 会 日 時	令和 2 年 7 月 1 5 日 (水曜) 午前 9 時 3 0 分 開会		
	休憩 10:00-10:01		
	午前 1 0 時 1 9 分 閉会		
	休憩時間： 0 時間 0 1 分	会議時間： 0 時間 4 8 分	
会議場所	役場 3 階 第 1 委員会室		
出席委員 氏 名	委員長 立川 美穂	委 員 梶澤 幸治	
	副委員長 渡辺洋一郎	委 員 広瀬 重雄	
	委 員 中田智恵子	委 員 常通 直人	
	委 員 橋本 和仁		
説明員	公立芽室病院事務長補佐	江崎 健一	
	公立芽室病院医事係長	多田 敬介	
	公立芽室病院庶務係主査	佐藤 文彦	
参考人			
欠 席 委 員 氏 名	委 員 寺町 平一		
事務局職員	事務局長 仲野 裕司	主査 上田 瑞紀	
『会議に付した事件と会議結果など』			
<p>1 開 会 委員長が開会を告げ、事務局から本日の委員会の日程を説明する。</p> <p>2 議 件 (1) 調査事項 ア R 1 公立芽室病院の決算状況について 委員長：担当課から説明願う。 事務長補佐：令和 1 年は、総収益 19 億 1,173 万円、総費用 20 億 5,579 万円となっており、昨年との比較では収益△ 1 億 3,460 万円、費用についても△ 1 億 193 万円となっている。総収益が 20 億円切るのは初めてで、医業収益も 15 億円を切る内容となっている。診療科が減ったこともあるが、医業で収益を上げなくてはならないと考えている。職員給与費は、平成 30 年度から 3 階病床が一時休床となったことにより、看護師等の新たな採用がなく人件費は減少している。 収支差引すると 1 億 4,406 万円が赤字となる。病床利用率は昨年度比△1.7%、平均患者数は入院△1.8%、外来△21.8%となった。産科がなくなったことで小児科が大きい影響を受けている。その他の科は微増減というところ。 他会計繰入金 8 億 1,931 万円は、他会計出資金が 4 億円と、大きく引き上げている要因となっている。</p>			

資金不足比率について、H28 からの銀行借入がこれまでの資金不足を大きく押し上げています。20%超えると赤字団体となる。10%を超えると総務省、道から指導を受ける対象となる。資金不足を解消するために令和元年度は特に多く繰入したことで、借入金 は 5,000 万円と抑えることができ、資金不足率 3%となった。コロナの影響によるものは第一四半期の報告ではっきりしてくるが、厳しい状況となる見込み。

委員長：質疑を行う。

橋本委員：コロナの影響により全国的に病院経営が下火になっている。国で診療報酬の一部を概算前払という形で利用できるという報道があったが。

事務長補佐：具体的にどうするかは未定となっている。慎重に国の動向をみて動いていきたい。

梶澤委員：病床利用率 78.5%は当初の目標 87.3%と大きなかい離があるが、どのような整理をしているか

事務長補佐：今年度においては具体的に各科先生の中で目標を持っていただき、目指す数字に対応できるようにしていきたい。

梶澤委員：理解した。令和 2 年度は病床利用率 84.5%と高い設定をしている。達成すると期待しているが病院としてはどのように考えているか。

事務長補佐：目標に向け一丸となっているところ。コロナの影響もあるが、それはあくまで影響として受け止め、病院全体の士気を上げて目標に向かっていく。

梶澤委員：3階療養病棟 40 床はコロナ病床としていたが、病床利用率はどのように算出しているのか。

事務長補佐：10/1 稼働すると見込み、各階分けて率を出しわかりやすくしていきたい。心配なのはコロナ対策において当院がどこまでやっていくか検討しているところ。10/1 療養病床を目指しているが国道の要請を踏まえ検討していきたい。

広瀬委員：十勝に新型コロナウイルス感染者が増えている状況にあるが、コロナ病床としている療養病棟をどう確保していくのか。併せて、国道の要請で当初 10/1 療養病棟開始としていたものが叶わなくなったとき、病院の収支に影響が出てくる。国道に対してこちらが要望していかなければ。町内から感染者が出た場合、地域の病院としてどうしていくか、病院内部の議論はどこまで進んでいるのか。

事務長補佐：病院の中でもどう動いていくのが地域医療を守るために必要なのか検討しているところ。国の包括二次補正予算で、コロナ病床を構えたときの空床確保の予算や、医療機器購入への補助等の大きな予算が組まれており、道から説明を受けているところ。収入を補てんするからコロナ病床を確保してほしいという国の雰囲気もある。町民がいつ罹患するかわからない状況であるので、地域の病院としてできる範囲で対応できるように進めていきたい。動きがあれば報告していく。

広瀬委員：現状については理解した。コロナ感染者を受け入れた病院が経営的に厳しくなっているというのが全国的な状況。特に緊急事態宣言下では、経済を止めた場合休業補償するという国の政策があるが、病院はコロナ病床を確保したときの国からの補てんがないのであれば、動向を待つのではなく病院、町としてこちらから強く申し入れるべきである。

事務長補佐：昨日も補助金の関係で道と打ち合わせをした。コロナに係る機器購入補

助金や空床に対して、どのくらい補助があるのかというところで、道としては8月末までにお金を入れたいとのことであった。国道は11月頃に大きく感染が広がるのではないかと懸念している。現在は補助申請を出す前の段階。具体的には進んでいるので少しお待ちいただきたい。

渡辺委員：小児科外来の人数がH30からR1にかけかなり減っている。要因は何か検討しているのか。

事務長補佐：産科がなくなり来院していただける人数が確保できなくなったこと、医師2人体制から1人態勢になったことが患者の人数に関わってきている。また、コロナ感染対策によりインフルエンザが流行しなかった。それで小児科受診が減ったこともひとつの要因。信頼していただき担当科の医師を含め引き続きがんばってきたい。

渡辺委員：町民からは、週末前に受診しておきたいが金曜の午後が休診であるという話も聞いた。予防接種の待ち時間が長いなど課題があると思うが、診療体制の見直しや予防接種を受けやすい体制を整えるなどの検討は。

事務長補佐：院内で体制含め担当医師と相談しているところ。

委員長：以上で調査事項「ア R1 公立芽室病院の決算状況について」を終了する。

イ 6月定例会議の振返りについて

委員長：副委員長から説明願う。

渡辺委員：厚生文教常任委員会で追跡調査すべきもの、総務経済常任委員会に追跡調査を依頼したいもの、議運全般に関する検討について意見があった。内容は資料2のとおり。

委員長：「厚生文教常任委員会で追跡調査すべきと考える政策・事務事業等」

聞こえに関する問題について、条例設置が必要ではという意見。調査事項として研究していきたいと考えるが。

梶澤委員：個人的には賛同したい。全国において手話言語条例を制定している議会が多くなっている。開かれた議会という意味では、調査してくべきと考える。

委員長：委員会として調査継続すべきとの意見があったが、継続調査するという進め方でよいか。

(異議なし)

委員長：「他の常任委員会に追跡調査を依頼したい政策・事務事業等」

1 【新嵐山スカイパーク再整備の課題と今後の取り組みについて】

この意見をいただいた橋本委員に補足説明をお願いする。

橋本委員：一般質問の中で違法との発言があった。自分で調べたところ違法性がないことがわかった。管理・設置条例が生きていの中で、町は条例を改廃しワイナリー事業者に貸し出しをすべきと考えたところである。

委員長：この件の取り扱いについて意見を伺いたい。

梶澤委員：所管委員会で論点整理した結果を受けて、本委員会での扱いを考えては。

委員長：議運の中で取り上げるのか、ここで終わらせ総務経済常任委員会の経過を見守る方向なのか。

梶澤委員：厚生文教の振り返りであり大変重要な内容であるため、当然議運に上げるべき。

委員長：議運で取り上げていく。

委員長：2【大規模災害発生時に避難所を開設する際の感染症対策について】

2名の委員から意見があった。中田委員から詳細説明を願う。

中田委員：3密を避けたガイドラインが早めに提示されないと、いざ避難となってもなかなか行動ができない。先日町の避難訓練があったが、流れや案を早めに提示していただければ、ガイドラインが完成する時期がわかってくる。早急に調査したい。

委員長：常通委員からの意見として、答弁の中では年内に計画、防災計画の見直しは年度内という回答であったが、現時点で町は町民への情報提供含めどのように対応するのか、総務経済に調査を依頼したいと考えるが。

橋本委員：先週町の防災訓練を終え防災責任者に状況を聞いたところ、1回目をやって見直す箇所が見えてきた。今後更に詰めていきたいとのこと。町はガイドライン策定を進めていることから、まず、それが出てきてからではどうか。

渡辺委員：避難所体制を整備しないと避難行動につながらないという重要な課題である。備蓄品に関しても避難所を運営していく上で大変重要である。議運に上げ、総務経済に調査依頼してはどうか。

委員長：2点について議運に上げ、総務経済常任委員会に追跡調査していただくということでよろしいか。

常通委員：マニュアルを作るのはわかっている。現時点で感染症対策がないので災害が起きた時に柔軟な対応ができるのかどうか、そういった方向性を総務経済常任委員会で確認をしていただければと思っている。

委員長：追跡依頼する。

「議会運営全般に関する検討」

マスクをつけての議会運営について、定例会に向け傍聴者に聞きやすい体制にしたいと考えるが、意見をいただきたい。

梶澤委員：取り組むべき。幕別町議会ではアクリル板を使い飛沫防止策を取っていた。

委員長：議運に上げることで意義はないか。

(異議なし)

委員長：決定とする。

委員長：以上で調査事項「イ 6月定例会議の振り返りについて」を終了する。

3 その他

(1) 次回委員会の開催日程について

正副委員長一任とします。

(2) その他

委員、議長、事務局ともになし。

以上をもって、厚生文教常任委員会を終了する。

傍聴者数	一般者	0名	報道関係者	2名	議員	0名	合計	2名
令和2年7月15日								
厚生文教常任委員会委員長 立川 美穂								